

達成度(評価)  
 A:十分達成できている C:やや不十分である  
 B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖高等学校		
1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	アンケートでは生徒、保護者ともに90%以上が「学校生活に満足している」。一方、「家庭学習時間が確保できている」生徒は50%程度であり、自発的な学びを促す仕掛けづくりが急務である。教科横断的指導やサポートプログラムの活用など、探究活動を体系的に学ぶ体制を整備し、生徒が主体的に考え、行動する機会を多く設ける必要がある。		2 SAGAスクール・ ミッション 学校教育目標
	○東部地区の県立中高一貫校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○魅力を磨くことで、県境にある高校として県内外から志の高い生徒を呼び込み、地域・日本・世界の未来を切り拓くリーダーを育成する。		
3 スクール・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
	①国際社会の平和と発展、環境保全に進んで貢献する人材を育成します。 ②歴史と伝統を重んじる態度と、未来を切り拓く力を備えた人材を育成します。 ③未知の課題に挑む知性と感性を兼ね備えた実践的行動力のある人材を育成します。 ④多様な価値観や豊かな想像力を備え、柔軟かつ斬新な発想で新世代を創造できる人材を育成します。	①基礎・基本を重視するとともに、質の高い授業や深い学びのできる活動を通して、確かな学力を育成します。 ②探究活動を通して、知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力が身につくような充実した学びを実現します。 ③生徒主体の学校行事及び生徒会活動、部活動を通して、リーダーの資質・能力を育成します。 ④地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを目指します。	①学習意欲が旺盛で、不断の努力ができる生徒を求めます。 ②学校行事及び生徒会活動、部活動やボランティア活動に積極的に取り組む生徒を求めます。 ③主体性ととともに、他者と協働する姿勢をもって、ものごとに取り組もうとする生徒を求めます。
4 本年度の重点 目標	①希望進路を叶える確かな学力の育成 ②心身の健康と豊かな人間性の育成 ③主体的に社会と関わり、貢献できる力の育成 ④学校の魅力創出と持続可能な学校運営の推進		

5 重点取組内容・成果指標				中間評価	最終評価	主な担当者 ☆は取りまとめ担当係 ☆が2か所の場合は、該当箇所				
(1)共通評価項目				学校関係者評価						
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○家庭学習時間の確保と定着のための学年・分掌間で連携した取組	○低学年時に家庭での学習習慣を確立し、各学年での学習時間目標(学年プラス1時間)を達成した生徒の割合を70%以上にする。	授業での初期指導を徹底し、学習の習慣化に努める。 ・年数回、全学年で学習時間調査や生活アンケート等を実施し、情報を共有して対応策を講じる。 ・担任と生徒の二者面談を積極的に行い、進路相談とあわせて生活習慣改善や学習意欲向上等の助言を行う。	・	・	・	・	・	・	教務部 進路指導部☆ 各学年
	○授業の充実、改善に向けた効果的な取組	○学力向上のための効果的な指導のための授業改善に取り組み、自分の学力や技能が向上していると思う生徒の割合を90%以上にする。 ○中高合同で研究授業を行い、中高合同教科会議を実施する。	・常時すべての授業で相互見学可能とする。 ・中高相互授業参観を実施し、中高合同教科会議を開き、授業改善に努める。 ・年2回の授業評価アンケートの結果をもとに、教科会議で分析し、授業の工夫改善につなげる。 ・可能な範囲で先進校への授業視察の機会を設け、情報を共有してよりよい授業づくりに活かしていく。また、予備校の教員向け講座も活用し、授業力向上を図る。	・	・	・	・	・	・	教務部☆ 進路指導部☆
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○校内または校外の人権・同和教育講演会に参加した教職員の割合を90%以上にする。 ○SNSや個人情報等に関する講演等を通して、情報モラル教育の徹底を図る。	・人権・同和教育講演会、及び各クラスでの人権学習・進路保障HR等を実施し、正しい知識と公正な判断で行動できる態度の育成につなげる。 ・月に1回は注意喚起を行い、生徒が情報の取扱やトラブル未然防止について考える機会とする。	・	・	・	・	・	・	教務部(道徳教育推進担当、人権・同和教育担当) ☆ 情報メディア部☆
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事業対応など)について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上にする。	・年間2回の生徒保護者向けのアンケートといじめ対策委員会を実施する。 ・担任・学年・生徒指導と連携をとり、学校生活全般においていじめ・体罰防止に取り組む。	・	・	・	・	・	・	生徒支援部☆ 各学年
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 ○毎朝朝食をとる生徒の割合を80%以上にする。	・長期休み期間は貸し出し冊数を増やす。 ・新刊案内を校内掲示する。(学期に1回) ・図書館だよりを発行する。(毎月1回) ・県立図書館や市立図書館と連携して授業の資料の充実を図る。(年1回以上)	・	・	・	・	・	・	保健相談部☆ ※玉井先生 各学年
	○安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故件数を前年比マイナスにする。 ○集会や各連絡を通して、安全に関する情報を共有し、周知徹底する。	・食に関する意識調査を実施する。 ・家庭科の授業などをとおして、食の大切さを育む。 ・保健室来室生徒に、個々の状況に応じた指導を行う。	・	・	・	・	・	・	生徒支援部☆ 各学年
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休業日、学校閉庁日等を設定し、時間外勤務時間の削減を図り、教育活動との両立を図る。 ・休暇を取得しやすい職場の雰囲気を作る。 ・時間外勤務時間削減に向けて、教職員からの声も聞きながら改善を進めていく。	・	・	・	・	・	・	管理職
●特別支援教育の充実	○生徒にとって学びやすい学校づくりの推進	○保健相談部で、配慮の必要な生徒の情報共有の場を設定し、スクールカウンセラーを含め職員間で情報共有の充実を図る。	・年度当初に各学年ごとに生徒理解会議を開催する。 ・シェアリング・シートを作成し、毎月1回の教育相談会議を開催する。	・	・	・	・	・	・	保健相談部☆ 各学年
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				学校関係者評価		主な担当者				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への学校の魅力の発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上 ★グローバルな視野・考え方を持った人材の育成を目指し、キャリア形成に資する探究活動プログラムの充実を図る。 ★校外の団体が主催する発表会やコンテストなどに参加した生徒の割合が20%以上	・既存の学校パンフレット、学校説明会、ネット配信による学校PRについて、本校独自の魅力を積極的に発信し、必要に応じ内容を見直し、改善する。 ・さまざまな行事・活動を一層充実させるために行事ごとにアンケートなどで振り返りを行い、次年度に向けた改善を行う。 ・個々の興味・関心や語学力、目的などに応じて自己に最適なプログラムが選択できるよう、複数のプログラムを設定する。 ・校外の団体が主催する発表会やコンテスト等を積極的に案内し、授業で身に付けた知識・技能を活用できる場面を提供する。 ・多くの研究施設等が集積している地の利を活かし、企業、大学等と連携した探究活動場面を設定する。	・	・		・	・	・	・

○進路指導の充実	◎生徒の進路意識を高め、進路希望を実現するための適切な指導	○面談での助言が効果的だったと答えた生徒の割合を90%以上にする。 ○難関大5名、九州大20名、国公立大120名以上の合格を目指す。 ★キャリア教育の一環として、OBや本校関係者等による講演会を実施する。	・進路検討会や模試分析により、客観的に生徒の学力特性を把握し、面談等での的確な進路指導につなげる。 ・入試問題研究の充実と各種研修会への参加を通して、教科指導及び進路指導の指導力向上を図る。 ・難関大学志望生徒への学習指導について、各教科での工夫改善と全体での情報共有に努める。 ・大学入試の変更点について、教職員の情報共有とともに、随時、生徒保護者への情報提供を行う。 ・講演会等を実施し、生徒の進路意識を涵養する。 ・上記を継続的に取り組み、第一志望大学合格者の割合を増やす。		・		・		進路指導部 各学年
○学校に対する生徒・保護者の満足度	○学業だけでなく、部活動やその他の活動に自ら積極的に取り組む姿勢を重んじる学校文化の中で、生徒が生き生きと学校生活を送ることができる教育活動の実践	○アンケート「生徒は、学校生活に十分満足している」で肯定的な回答をした割合を生徒・保護者ともに90%以上にする。 ★県内外へ向けて本校の魅力を積極的に発信する。	・部活動の活性化を図り、ボランティア活動、部活動以外の文化的活動、研修会など、様々な分野の活動の場を積極的に紹介していく。 ・生徒の主体的な活動をできるだけサポートするよう努める。 ・Instagramの活用などによるタイムリーな情報発信に努める。 ・中学校、学習塾、市町教育委員会等への訪問説明を行い、本校の魅力を伝える。		・		・		生徒会 情報メディア部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望 (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
--------------------------	---